

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 38

2021年6月8日(火)発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

心休まる白梅で

中山正雄

(白梅学園短期大学名誉教授)

白梅学園の西門(幼稚園側)から入って高校のグラウンドを左に見てE棟を過ぎる。空中の渡り廊下の下を通ると中庭である。すぐの左側に、今は3メートル近くになったイチジクの木がある。今、丁度、実をつけている。イチジクは、春と秋に2度実をつける。どうしてかは知らないが不思議と春は実が少なく木の高いところに実ができる。秋はまんべんなくできていたと思う。

何年前だったか、はっきり覚えていないが小さな苗木がそこに有った。葉の形から「お、イチジクだ」と嬉しかった。私は、広島県県境近くの島根県の農村で生まれ育った。物もない時代、木の実のごちそうだった。私の家には祖父が若い頃に植えたというイチジクがあり、友達と一緒に採って食べる時に得意な顔ができたのを思い出したのである。父が病弱で現金収入が少なく、村

の祭りでは、当時流行っていたピストルでの撃ち合いも「弾は買ってもピストルが買えず」ピストルを借りるためいつも打たれて負ける役者だった。そのような時代だったから、イチジクは、思い出せば微笑が心を占めるもののひとつである。毎年、「早く大きくなれ、美味しい実をつけて」と声をかけていた。実がつくようになって最初は感激で、毎日のように熟れるのを眺めていた。一昨年、中庭の手入れをする職員杉本さんから「先生が植えたのですか」と聞かれた。「私ではなく、退職された事務の川端さんだと思うよ」と伝えたら、「ミカンの木は引き継いで手入れしてるけど」とのことだった。



大学の中庭には、沢山の実のなる木がある。最も大きいのは夏ミカンだ。そして、そこに並ぶように

鬼柚子の木、キンカンの木がある。キンカンも23年前に教員になった時は、手が届く高さだったが今は存在感を確固にしている。梅の木は、キャンパスのあちこちにあるが中庭にはない。代わりに杏子の木がE棟側にあ

小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

る。花は咲くがほとんど実がならない。2階の研究室から中庭を見ていて、一つの実を見つけて「発見した」のは10年くらい前だが、その後も、花は咲けども実は大きくならない。

白梅の正門からは、桜もあるが、梅の木、銀杏の木、J棟の手前右には、柿の木、梅の木、枇杷の木、胡桃の木がある。B棟と講堂の間には生物学の故吉川先生が植えた2本の山椒の木があった。太さ6~7センチにな

って、良い香りを放っていたが、東日本大震災後に備蓄倉庫のために2本とも切られてしまった。吉川先生と一緒に悲しんだ思い出もある。ごみやふきなどの野草も、他の花咲く樹もあり、キャンパスは散策すると安らぎを与えてくれる。私も家からミウガをもってきて杏子の木の近くに植えた。毎年、銀杏の実を拾っている私の姿をみて、学生が声をかける。今の若い人に伝える材料が白梅には沢山ある。学び舎であるがこのキャンパスには人を温かく迎える沢山の教職員もついている。

一緒に育とう

白梅幼稚園 副園長 霜出博子

白梅幼稚園の園庭には、大きなメタセコイアの木があります。その木に耳をあてている子ども、美しい緑の葉を集めている子ども、根元にしゃがんでシャベルで何やら掘っている子どもの様子がみられます。子どもたちは、自然の中において、土に触れ、昆虫や動植物をみつめ、生き物を知っていくようです。

「ダンゴムシがいるよ。」「大きいのがいたよ。」「歩いてるよ。」「・・・とダンゴムシに出会い探している子どもたちがいました。お腹に何かくっついてる・・・卵？赤ちゃんだ！と

子どもを抱えたダンゴムシをみつめてみせてくれました。「なんだろう？」「はじめてみたね。」驚きや感動もあることでしょう。互いに様々な発見を話題としあい、一緒に感じている様子です。



このように、遊びの中には子ども自身がみつけたりやってみたりしながら気がつき、先生や友だちと一緒にその世界を広げたり探っていくことが多々あります。子どもたちの好奇心やたくましさを感じます。子どもたちの発見に私たち教職員もひきこまれ、一緒に考えたり、試したり、喜んだりして毎日を重ねています。



コロナ禍の中で行事の中止や変更があり、子どもたちの生活を見直してやれることへの工夫を教職員間で日々検討しています。緊急事態宣言中は、学外にでることは止めました。

しかし、身近なところに楽しめることがあることにあらためて気づかされています。

白梅学園内のお散歩コースもそのひとつです。高校グランド奥の草原―築山をかけおどりてヨーイドン！と走ることを繰り返し、草花を手にして帰ってきました。「幼稚

園があんなに遠くなっているよ。」と歩きながらつぶやく声がしました。

大学の先生がつくっている畑へ一背丈まで伸びた大根の葉のトンネルが子どもたちを迎えてくれました。ネギ坊主やよもぎにラベンダーなど他の物を踏まないように気を付けながらクラスの先生とみてみました。もちかえった大根のさやを茹でて食べてみた学年、土ごと持って帰ってきて変化をみている学年、手にしたたねを埋めてみた学年・・・やってみたくことがいろいろとでてきます。



幼稚園内の畑の土一固くなっている、高校の体育科の先生が耕運機で耕してくださいました。その様子をじっとみつめていた年長組の子どもたちは・・・「(耕す)土の色が変わっていくね。不思議だな。」「(耕運機が)ぐるぐる回るトラックのタイヤみたい。」「・・・耕された畑に入った子どもたちは、ふかふか足びみをして柔らかな土をふんでみたり、土の塊を手で握ってつぶしてみたり、幼虫をたくさんみつけたりしていきました。『子どもの感性を大事にしてください。』とにこにこ見守って、先生方は再度耕運してくださいました。

中庭から中学校の梅ノ木コースは、実のなっている木がいくつもあることに子どもたちも気がつきました。四季折々、お散歩が楽しみです。

こうして、周囲の方々の支えもいただいて、子どもたちの楽しい生活が続いています。日常を一緒に過ごすことが、子どもたちの力になっています。玉川上水を渡る風と小鳥の声が幼稚園にも届きます。皆ででかける日まで、思いをもって蓄えていけることでしょ。

不登校・ひきこもりを考える会 @ 小川西

～みんなで作ります～

不登校・ひきこもりを考える会 @ 小川西
Futeikou and hikikomori Meeting @ Ogawawest

一人ひとりの「生きづらさ」に寄り添い、地域で孤立することなく暮らしていくにはどうしたらいいかを、学びあっていく会です。

----- 2021年度 活動予定 -----

日時 毎月第2火曜日
13:00～15:00

場所 小川西町公民館
4/13、5/11、6/8は講座室にて開催予定
7月以降も毎月、開催予定

参加費 一般の方：各回100円
会員の方：年会費1,000円、各回0円

不登校・ひきこもりの当事者の家族や支援者を中心に、メンバーを随時募集中です。

お問い合わせは、代表・宮崎まで
電話 090-9231-8170(平日17時まで)
メール sabutibi420@gmail.com

2021年4月発行

小学校や中学校の不登校や大人のひきこもりのニュースが新聞やテレビで流れてきますが、この不登校やひきこもりについてどれだけ理解されているのでしょうか。昨秋、小川西公民館で開催された「不登校・ひきこもりを考える」講座から1つのサークルが立ち上がりました。不登校やひきこもりの当事者家族、この問題をしっかりと考えたいという市民有志が参加しています。1月に初めてのあつまりを持って毎月準備を進めています。4月と5月は緊急事態宣言のため集まりができませんでしたが6月からは新たなスタートとなります。

毎月1回第二火曜日の13時から15時まで小川西公民館を会場に行います。関心のある方は以下の連絡先に電話もしくはメールを下さい。

参加費は一般の方各回100円、会員の方は年会費1000円です。

宮崎:090-9231-8170(平日は17時まで)

Sabutibi420@gmail.com

みんなの協力でできた オンラインあそぼうかい&世代間交流 清水健太(家族地域支援学科3年)

こんにちは。白梅子育て広場の代表を務めさせていただいております、子ども学部家族地域支援学科3年清水健太です。白梅子育て広場は、子育て世帯を中心に世代間交流企画を主に主催し地域の方々との交流をしております。今回は5月22日にオンラインにて、「あそぼうかい世代間交流広場」を開催しました。その時の様子をここで書かせていただきます。

そもそも「あそぼうかい」とはなにか。あそぼうかいとは子どもと一緒にものを制作する「制作コーナー」、自分の体で動きあそびを体験する「あそびコーナー」、年齢層が低めの子どもや少し落ち着いて過ごしたい子ども向けの「ホッとコーナー」、参加者の方々と最初に接しコミュニケーションをとる「受付コーナー」、劇などを通し企画の締めをおこなう「おわりのつどいコーナー」、この5つのコーナーに分かれて学生が作業をおこない、参加者の方々と交流する企画です。

当初日程は5月1日に開催。また新型コロナウイルス感染症対策を講じ、白梅学園大学内にて対面での活動を想定していました。しかしながら東京都の「蔓延防止重点措置」の適用により5月22日に日程をずらすこと・国からの緊急事態宣言を受け外部から人を呼びあそぼうかいを開催することは難しいと判断をし、オンライン開催へ切り替えることを余儀なくされてしまいました。

オンラインでの開催に方針を変更したのが4月の下旬でした。そこから約1か月ドタバタでの作業でした。対面からオンラインになったことにより企画の内容を一から変更しなければならぬコーナーも出てきました。本番までに形になるのか、またいつもチラシなどの内容もすべて書き直しをしなければなりませんでした。そういった

不安がありました。

しかし2年生以上の上級生、今年度入学した1年生の積極的な意見交換などもあり、オンライン上でできる最高の企画をそれぞれ各コーナーが作りだしてくれました。



親子の参加は20組ですが、高齢者のデイケア施設、障がい者の放課後デイを行っている施設からの参加もあり、高齢者、障がい者を含めた交流もありました。学生達は当日大学内の教室を7つ使って、それぞれが手作りの道具をもとにして演じました。100人近い学生がフル活動です。

オンラインでの経験が豊富な2年生、子育て広場の経験が豊富な3年生以上、フレッシュな意見を持っている1年生、それぞれの特徴をいかしよりよい企画を作り上げることができました。次回の企画は7月10日を予定しています。もし興味が出てきましたら参加をご検討いただけたら幸いです。

コロナ禍の中で

小川町一丁目児童館 毛利拓夫

令和二年度という大変な一年が、幕を閉じました。令和元年度三月二日より、令和二年度六月二十一日迄の臨時休館期間は、私達にとって嘗てない経験に翻弄されながら、試行錯誤の日々でした。言う迄も無く未だ収束の見えない「新型コロナウイルス」が全ての元凶でした。この期間中、職員は児童館内各室の床や壁面の汚れ落としや倉庫内の整理整頓に励み、児童館入り口や遊戯室ドアの装飾やガラス清掃と消毒の実施、開館した時の利用ルールの作成とイベントの事前準備等に精を出し、時には、学童の応援に向いたり勤務時間を有効に使いながら過ごしました。



また、四月十三日からは、緊急事態宣言発令に伴い「勤務自粛」を命じられ、ステイホームを経験しました。この期間中職員は、各自「研修課題」を設定し、日誌を綴り、報告書の作成に明け暮れました。全てが新しい経験の日々でした。令和二年度六月二十二日から、コロナ禍の中、開館を許されましたが、当館の遊戯室のみ換

気不十分との判断により使用禁止となりました。中・高生と思われる男子の声で数回「遊戯室を使いたいのですが使えますか」との電話があったのを思い出しています。今では、随分大勢の中高生が来館しては、バスケットボールに興じています。

開館後は消毒に明け暮れて、来館者の方々にイベントを提供する余裕もありませんでした。十月を迎えてから、対象者別のイベントを、感染症予防対策に注意しながら、開催しました。喜びとお礼の言葉を沢山頂きました。

令和三年度を迎えましたが、新型コロナウイルスの収束の気配は微塵も無く、今はワクチン接種の効果が、唯一の解決の道標となることを切に祈っています。「明けぬ夜は無い」という希望の言葉を、心の支えとして、職員一同、これからも着実に前進していこうと誓っています。



講演とワークショップ

「フレイパークとインクルーシブ公園」

～誰もが楽しく遊べる公園について、みんなで話しましょう～

遊びを通してあらゆる子がのびのび成長し、多様性の理解を深め、地域や社会とのつながりを広げていけるように、自分は何ができるかな？こだいらの公園をテ

ーマに学びを引き出せたら素敵です。新しくできる「鎌倉公園」と「たかの台公園」が、人とのつながりを生み出していこうにするにはどうすればいいか、一緒に考えま

しょう。

- ・2021年7月10日(土)13:30~16:00
- ・中央公民館ホール(定員90人)無料
- ・講演とファンリテーション
- 神林俊一さん(TOKYO PLAY プレイワーカー)
「気仙沼あそびーぼー」プレイリーダー

・主催 NPO 法人こだいら自由遊びの会
連絡先:ryukorin088@softbank.ne.jp
090-1771-7431

申込制ではありませんが、人数把握のためご連絡いただけると助かります。

- 13:30~主催団体からご挨拶
- 13:40~講師からプレーパークとインクルーシブ公園についてのお話
- 14:50~休憩
- 15:00~おしゃべりタイム
- 15:30~振り返り

マスク着用でいらしてください。

晩春から初夏にかけての歌

金田利子(第3ブロックむさび通いに滞在)

西ネットの地域を歩いているといろんなことに気がきます。

① 武蔵野美大前のバス停に立っていると3月末に、いつもだと入学式に咲く桜が卒業式に咲き、満開の桜に送られて沢山の着飾った卒業生が門を出ていきました。それを見ながらの1首です。

◆ 荒海に桜咲く門出にけり 泳ぎ手として未来を開け
(暖冬で卒業式に桜咲く、大学生の門出見つめて)

② 玉川上水を歩いていると、この緑がずっとずっと先まで続いてほしいという思いから「青い空は青いままで子どもらにつたえたい」が思い起こされ、緑が緑のままという思いになり1首作りました。

◆ 新緑の玉川上水歩くとき 小森香子の歌の思いに

③下の1首は、最近の政府のやり方がまさにパワハラなんだと気づかされて

◆ 高齢になればなるほど医者離れ 医療費値上げは
国のパワハラ

④最後の歌は夫の級(旧)友から原告になってになって裁判官の前で読んだという訴状が届き、まさに今私たちを苦しめているのがこの問題だと思って作った1首です。

◆ 勇気湧く「安保法制違憲訴訟」 応援強めん憲法
記念日

みなさまへ

私の歌はまさに語呂合わせで、短歌なんて言うものではありませんが、ふと地域を歩きながら思うことを書いて繋げてみませんか。ミソヒ文字は、短く思いが書けるのでいい方法だと思っています。

西ネットへの私の希望

老人ホームをやめてインクルーシブな世代間交流ホームの建設へ

金田利子

私は、親の介護にくたびれている方に出合えば、「今はホームと言っても施設を地域にしようと職員が頑張り、何号室ではなく、何丁目何番地の誰さんという表札までつけているところが多くなってきたので、ホームが地域になっているから社会の力を借りたらいいと思うよ」なんて言ってしまう。しかし、老人だけの地域はないのでいくら努力してもなかなかそれはかないません。自身も本音を言えば老人だけのところには行きたくありません。

でもどうやら、この西ネットが終の棲の地域になるのではないかと思う時、真剣にそのことを考え始めています。

若い人がいてこそ、高齢者の知恵袋を披露することが出来ます。若い人も高齢者たちに若い人の好きをうんと見てもらえて、「今の若いものは…」何て言葉は出て来なくなるに違いありません。

例えば母子家庭のお母さん、父子家庭のお父さんには希望があれば、職員になってもらい、子どもと一緒に住めば、高齢者は居ながらにして指導員にもなれるでしょう。

インクルーシブな社会的ハウスです。家族という血縁を越えて地域で暮らせる場づくりです。それこそ世代間交流の願うところですよ。

今は、縦割り行政が邪魔をしており、施設とは「似た者同士の居住の場」となっています。これを崩すことが出来るのは西ネットのような地域づくりの進んだところでしかありえないでしょう。モデルケースを一つ作って、学生に安く部屋をかし、ただ生活していただけることが施設を地域にしていける道につながるはずですし、また地域の仲間づくりの拠点にもしていけます。自然な助け合いも見込めます。障害のある人だってみんなの助け合いの中で、自分らしく生きていけます。

どうするか、どう資金を集め、どう行政をひきよせるか、知恵を集めていきたいと願っています。これは夢ではなく希望です。ですので、初めのテーマも夢ではなく希望にしました。

西ネットの皆さんの知恵を集めれば可能なのではないのでしょうか。

学生達の表現力に感動

朝鮮大学校保育科 2 年実技発表会

瀧口優(白梅学園短期大学)

5月29日(土)17時30分より、朝鮮大学校保育科室において「保育科2年生実技発表会」が行われ、同じ保育科の教員として見学させていただいた。今まで数回見させていただいたが、今回はコロナ禍の中でどんなものができるのか心配していました。

発表は保育科の2年生9人が6つの発表を行いました。①『さんかくの国へようこそ』(劇)、②『森のアイスクリーム屋さん』(パネルシアター)、③『つりばりにかかったキツネ』(人形劇)、④『ぐるぐるコースター』(音楽劇)、⑤『はらぺこあおむし』(ブラックシアター)、そしてみんなで演じた⑥『スイミー』(劇)です。写真は『スイミー』の一場面です。

朝鮮大学校の学生達は保育科を卒業しても日本の幼稚園や保育園に勤めることができません。そのため日本の保育園に勤めるためには保育士資格試験を受けて合格しなければなりません。今回の2年生は4月末にその試験を受けたばかりで、準備も大変だったと思

います。

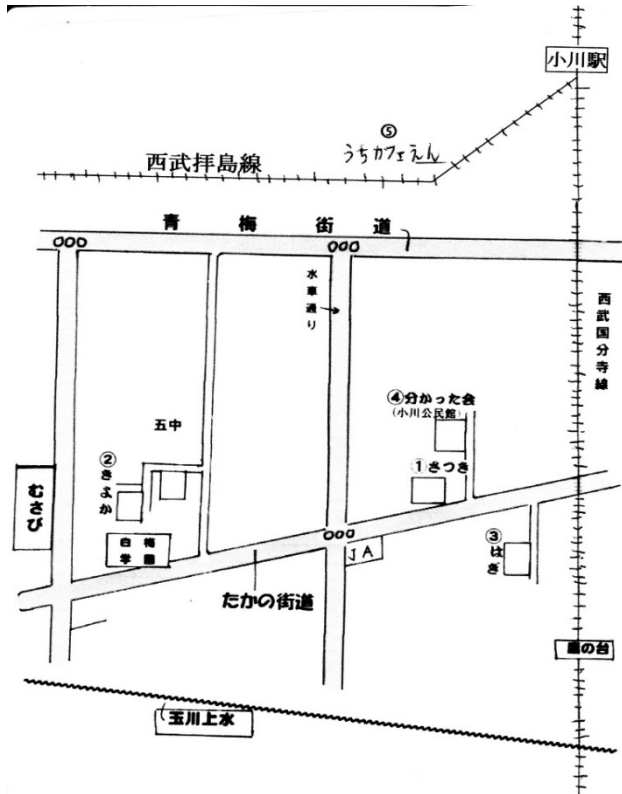
例年は1月の終わりにあるのですが、コロナ禍のために5月末になってしまいました。演技はどれもしっかりといて、レベルの高さを示しています。ただしすべて朝鮮語で、言葉はわかりませんでしたが、演技をみていると引き込まれていきます。来年もぜひ参加させていただきたいと思います。



皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① **ほっとスペースさつき**
毎週火曜と木曜 10:00~16:00 (移転先検討中)
問い合わせ: 渡辺 穂積
TEL: 042-344-7412
- ② **ほっとスペースきよか**
毎週月曜 11:30~15:30 (移転先検討中)
問い合わせ: 石川 貞子
TEL: 090-7732-2089
- ③ **アットホームはぎ**
毎月 7, 17, 27 日: 14:00~17:00
問い合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ **「分かった会」小中無料学習教室**
毎週木曜日 18:00~20:00 (小川公民館)
問い合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ **子育てサロン「うちかフェス」(小川町)**
毎週月・水 13:00~15:30分
問い合わせ: 伊藤絹代
TEL: 090-5441-6219



西ネットの今後の予定

- 大学世話人会: 06月18日(火) 18時~
- 地域世話人会: 07月06日(火) 18時~
- 大学世話人会: 07月20日(火) 18時~
- 大学世話人会: 09月07日(火) 18時~
- 地域世話人会: 09月14日(火) 18時~
- 懇談会: 09月28日(火) 18時~
- 大学世話人会: 10月12日(火) 18時~

イベントの予定

(コロナウィルスの影響でほとんどの計画は未定です)

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール: ever.onward.nara@xd5.sonet.ne.jp

編集後記: 「小平西のきずな」も今回で 38 号を迎えます。3ヶ月に1号の発行なので、この4月から10年目に入っています。もちろんここに載せられなかったものも沢山あるので、それらを含めてもっと地域の顔が繋がっていくことを期待しています(瀧口)。